

【論 説】

米国・中国・メキシコ間の貿易： 付加価値貿易から検討する新しい三角関係

咲 川 可 央 子

はじめに

2018 年から始まった米中貿易摩擦は、米中覇権争いへと発展し、第二次トランプ政権樹立後も両国の攻防は予断を許さない。大国となった中国は、ラテン・アメリカにおいてもその存在感を急速に増している。ラテン・アメリカと中国の関係は、貿易のみならず、融資、投資、インフラ、雇用創出など多方面において、質・量ともに緊密化している。米国は、歴史的に自国の「裏庭」とみなしてきたラテン・アメリカに対する中国の影響力が広がることを強く警戒している¹。Dussel (2025) は、ラテン・アメリカにおける中国の存在感が驚異的に拡大し、ラテン・アメリカが米中対立に巻き込まれるリスクが高まっている現状を踏まえ、ラテン・アメリカと中国の関係に関するあらゆる分野での集中的な研究を開始すべきであると主張している (Dussel (2025) : 2)。彼は、ラテン・アメリカと中国の関係を理解するには、三角関係の一角として米国を含める必要があることを主張し、これを「新しい三角関係 (New Triangular Relationship)」と呼んでいる (Dussel (2025))。

Dussel は、これまでもラテン・アメリカの中でメキシコを取り上げて、米中との三角関係に注目してきた。Dussel, et al (2013) において「新しい三角関係」という言葉を初めて用いて、貿易、投資のみならず、安全保障を含む政策についても包括的に論じている。また、Dussel (2020) では、特に米国・中国・メキシコ間の貿易に注目して分析している。本稿は、Dussel のこれらの研究に準じて、米国・中国・メキシコ間の貿易面に焦点を置いて、今日の三角関係につ

いて検証する。

ただし、本研究は、以下の点で既存研究を一步進める新しい研究である。第一に、Dussel, et al (2013)、Dussel (2020) では、貿易についての指標として通常の貿易統計を用いているが、本稿では貿易統計に加えて付加価値貿易統計を用いる。グローバル・バリュー・チェーン (GVC) が複雑になり、中間財が何度も国境を超える貿易が盛んになるにつれて、国際貿易を「取引額」で測ると「二重計上問題」が生じるようになった。そうした状況下、貿易についての相互依存関係を検証するためには、付加価値貿易統計を用いることが推奨される²。付加価値貿易統計を用いた既存研究は存在するが³、付加価値貿易統計を用いて米国・中国・メキシコ間について分析した研究は存在せず、その意味で本研究は新しい。第二に、本稿は近年の米中貿易摩擦の時期を含んだ新しい研究である。Dussel, et al (2013) が発表された時期は、米中貿易摩擦以前である。貿易面に着目した第1章において、中国が北米自由貿易協定 (NAFTA) の「第四の加盟国」となり、中国が米国市場においてメキシコに急速に追いつき、メキシコ市場においても存在感が増したことを示した (Gallagher, et al (2013) : 16) が、その情報は2010年代初頭までである。Gereffi (2018) も、貿易統計を用いて米国市場を巡り中国がメキシコよりも優位にあることを示しているが、分析期間は2010年代半ばまでと米中貿易摩擦以前である。Dussel (2020) は、2018年以降の米中貿易摩擦について言及はしているものの、2017年までの貿易統計を用いて分析しており米中貿易摩擦後の期間は含まれていない。

中国は2022年まで米国の輸入元として17年間連続で世界一位であったが、米中貿易摩擦の影響もあり、2023年にその座をメキシコに明け渡した⁴。メキシコの「フレンドショアリング」(友好国間でGVCを構築、強靱化すること)、「ニアショアリング」(生産拠点を消費国の近隣地に移転すること)の優位性が近年特に顕在化していると考えられる (咲川 (2023)、Alfaro, et al (2023)、Utar, et al (2025))。Alfaro, et al (2023) は、米中貿易摩擦後に、米国で中国からの輸入に代わってベトナムやメキシコからの輸入が増えていること (貿易転換効果) を指摘する一方で、メキシコ、ベトナムなど友好国における中国の

輸入シェアが増加しており、中国がこれらの国にFDIを増やすことにより米国のバリュー・チェーンに引き続き重要な役割を果たす可能性を示唆している（Alfaro, et al (2023): 32-33）。このように、Dussel, et al (2013)、Gereffi (2018)、Dussel (2020) が発表された当時と、米中貿易摩擦が長期化している今日では、三国間の貿易状況は異なるであろう。本稿は、貿易統計では2024年まで、付加価値貿易統計では2022年までを含み、米中貿易摩擦の影響を含んだ新しい研究である。

以下、第1節では、従来の貿易統計を用いて、米国・中国・メキシコの貿易関係の推移を明らかにする。まずは、米国－メキシコ間、米国－中国間、中国－メキシコ間の輸出・輸入と貿易収支の推移を確認する。さらに、貿易収支を「素材」、「中間財（加工品）」、「中間財（部品）」、「最終財（資本財）」、「最終財（消費財）」の五種類に分類して算出することで、各国がそれぞれの国に対してどのような財を輸出入しているのかを明らかにする。第2節では、付加価値貿易統計を用いて「二重計上問題」を解決し、米国・中国・メキシコの貿易面での相互依存関係を明らかにする。全産業のみならず、製造業全体、その中でもGVCが盛んな自動車産業、機械機器産業、繊維産業を取り上げて分析する。最後に、米国・中国・メキシコ間の貿易関係について、貿易統計を用いた結果と付加価値貿易統計を用いた結果でどのように異なるかを示し、結論を述べる。

1. 貿易統計を用いた米国・中国・メキシコ間の貿易関係

本節では、従来の貿易統計を用いて、米国・中国・メキシコ間の貿易関係がどのように推移しているかを確認する。

(1) 貿易額と貿易収支の推移

最初に、1995年から2024年までの輸出と輸入の推移、及び貿易収支（＝輸出－輸入）を確認する。表1-1に米国とメキシコ間、表1-2に米国と中国間、表1-3に中国とメキシコ間の推移を示した。

表1-1から、米国とメキシコ間の貿易（＝輸出＋輸入）が一貫して増加していること、米国のメキシコからの輸入が米国のメキシコへの輸出以上に増大し、米国の貿易赤字が拡大傾向であることがわかる⁵。米国とメキシコは、1994年1月に北米自由貿易協定（NAFTA）を発効し、経済統合を深めてきた。しかし、第一次トランプ政権（2017年1月～2021年1月）は、NAFTAを通じてメキシコが米国の製造業の雇用を奪い、米国の（対メキシコ）貿易赤字を生んでいると考え、「NAFTAは米国にとって史上最悪のディール」と言い放ち、一時は米国の離脱も危惧された。度重なる再交渉の末、2020年7月に新NAFTAとして米国・メキシコ・カナダ協定（USMCA）が発効した⁶。2010年代後半以降に米中貿易摩擦が開始し、Covid-19やロシアのウクライナ侵攻が続いてGVCのデカップリングが危惧される中、米国とメキシコはUSMCAを中心に、「フレンドショアリング」「ニアショアリング」によって、強固な貿易ネットワークで結ばれている。近年の両国間の貿易増加はこうした状況を背景としていると考えられる。なお、第二次トランプ政権（2025年1月～）は発足後矢継ぎ早に他国に対して関税の引き上げを畳みかけているが、2025年10月時点でメキシコに対しては世界各国よりも低い関税が課されている⁷。

表1-2を見ると、米国と中国の間の貿易は1995年以降増加し2015年にピークを迎え、それ以降は2015年の数字を上回ることではない。これは、2018年以降の米中貿易摩擦を反映し、米国の中国からの輸入が2015年をピークに減少しているためである。いずれの年も米国の中国からの輸入が米国の中国への輸出よりも大きく、米国の貿易赤字が計上されている。特に2000年代から2010年代半ばまでの米国の貿易赤字の拡大は著しい。表1-1と表1-2において、米国の輸入元として中国とメキシコの優位性を比較すると、2005年から2020年までは米国の中国からの輸入が米国のメキシコからの輸入よりも大きい。この結果は、Gallagher, et al (2013)、Gereffi (2018) と整合的である⁸。中国は2022年まで米国の輸入元として17年間連続で世界一位であったが、2023年にその座をメキシコに明け渡し⁹、直近の2024年には米国のメキシコからの輸入が中国からの輸入を上回っている。貿易統計を見る限り、長引く米中貿易摩擦の結

果、直近では米国の輸入元としてメキシコの優位性が勝っていると言えよう。

表1-3を見ると、中国とメキシコの間の貿易は、数字としては米国—メキシコ間、米国—中国間ほど大きくないが、年々増加している。特に中国のメキシコへの輸出の増加が著しく、中国の貿易黒字が拡大してきているが、2020年から2024年にかけての拡大は顕著である。これは、Alfaro, et al (2023)、Utar, et al (2025) の指摘と整合的である (Alfaro, et al (2023) : 32-33、Utar et al (2025)¹⁰ : 4-5)。さらに、原因の1つとして、メキシコを通じた迂回輸出が考えられる。すなわち、中国から米国への直接の輸出は2015年をピークに減少しているが、中国はメキシコへの輸出を通じて米国に輸出している可能性がある。通常の貿易統計では、迂回輸出を判別できない。こうした迂回輸出を確かめるためには、第2節で論じる付加価値貿易による相互依存関係を確認する必要がある。

直近2024年の三国間の貿易関係を図1に示した。この図を見る限り、米国とメキシコ間の貿易が最も盛んであること、中国は米国の輸入元の一位の座をメキシコに明け渡したものの、依然として米国向けの輸出が大きいことがわかる。Dussel (2020) は、2017年までの貿易統計を用いて、「2001年の中国のWTO加盟以降の中国の貿易面での存在がNAFTAの貿易分断を招いている」(Dussel (2020) : 22) と論じているが、直近の輸出と輸入を示した図1を見る限り、メキシコと米国の間は、中国と米国、及び中国とメキシコ間以上に貿易面で強い関係を有しているといえよう。咲川 (2023)、Alfaro, et al (2023)、Utar, et al (2025) が示した通り、米中貿易摩擦がGVCの調整とメキシコへの「ニアショアリング」「フレンドショアリング」を引き起こしたことが一因と考えられる。

表 1-1 米国とメキシコ間の貿易と貿易収支 (単位：億ドル)

	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2024
米国のメキシコへの輸出	463.1	1113.4	1202.5	1636.6	2357.5	2126.7	3340.4
米国のメキシコからの輸入	627.5	1359.2	1723.9	2322.5	2991.8	3288.6	5099.6
貿易収支 (米国)	-164.4	-245.8	-521.4	-685.9	-634.4	-1161.9	-1759.2

表 1-2 米国と中国の貿易と貿易収支（単位：億ドル）

	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2024
米国の中国への輸出	117.5	161.8	411.9	919.1	1160.7	1246.5	1435.5
米国の中国からの輸入	485.1	1000.1	2598.4	3829.6	5040.3	4571.6	4626.2
貿易収支（米国）	-367.6	-838.3	-2186.5	-2910.5	-3879.6	-3325.2	-3190.7

表 1-3 中国とメキシコの貿易と貿易収支（単位：億ドル）

	1995	2000	2005	2010	2015	2020	2024
中国のメキシコへの輸出	2.0	13.4	55.4	178.7	337.9	448.3	902.3
中国のメキシコからの輸入	1.9	4.9	22.3	68.8	100.3	162.2	191.6
貿易収支（中国）	0.0	8.5	33.1	110.0	237.6	286.1	710.7

（出所）表 1-1、表 1-2、表 1-3 とも UN Comtrade データ（SITC 分類）より筆者作成

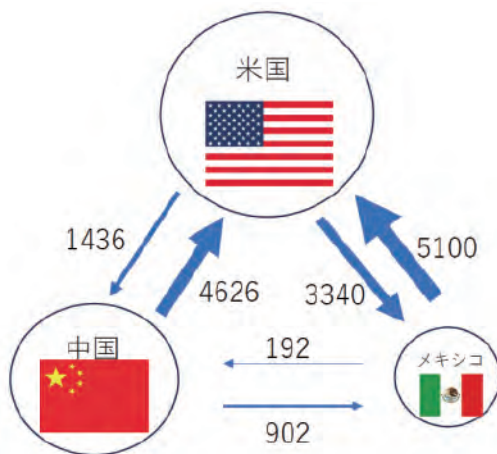


図 1 2024 年の米国・中国・メキシコの貿易関係（億ドル）

（注）矢印の太さは貿易額の量を、国を囲む円は GDP の大きさを反映している。

（2）種類別二国間貿易収支の変遷

次に、それぞれの国に対する比較優位を確認するために、種類別の貿易収支について検討する¹¹。表2にはメキシコの対中国及び対米国の貿易収支を、表3には中国の対米国の貿易収支を種類別に算出した¹²。いずれも、2015年から2019年の平均値、2020年から2024年の平均値を示している。

表2のメキシコの貿易収支を見ると、対中国と対米国で輸出入する財が異なることがわかる。中国からは中間財、最終財ともに純輸入しているが、特に部品と資本財の純輸入が大きい。米国へは最終財を中心に純輸出している。中国から中間財や資本財を輸入し、それを加工・組立に利用して米国に最終財を輸出していることを反映していると考えられる。米国に対しては、中間財のうち部品を純輸出して加工品を純輸入している。これは、米国とのGVCを通じた貿易において、部品を米国に輸出してその加工品を輸入しメキシコでさらに加工・組み立てをして最終消費財に仕上げ、米国に輸出していることを反映していると考えられる。この結果は、メキシコのGVCへの参加は、加工・組立など純粋な後方GVC関連貿易が中心であることを示した咲川（2023）と整合的である。

メキシコの貿易収支で2015－2019年と2020－2024年の間で符号が変わったのは、「素材」である。すなわち、2015－2019年においては、対中国で赤字、対米国で黒字であったのに対し、2020－2024年では対中国で黒字、対米国で赤字と反対になった。対中国においては、「素材」の三つの項目（付表1参照）のうち「21：工業用資材」で貿易赤字であったのが、2020－2024年では貿易黒字になっている。対米国においては、2015－2019年の「素材」の貿易黒字は主に「31：燃料と潤滑剤」の黒字によるものであった¹³が、2020－2024年では「31：燃料と潤滑剤」も貿易赤字となったため、「素材」全体で赤字となった。浜口（2024）はメキシコの2015－2019年の対米国貿易収支は「食品、燃料、工業資材（原料）」で黒字を算出した一方で、「食品、燃料、工業資材（加工品）」で赤字を算出し、その説明として「メキシコは石油輸出国であるが、国内で製油する能力が小さいため米国からガソリン等の石油製品を輸入している。同様のことは鉄鉱石・粗鋼の輸出と鋼材製品の輸入という関係にも見られる」（浜口（2024）：124-125）と説明しているが、直近の2020－2024年では対米国で「31：燃料と潤滑油」も貿易赤字となっていることには留意が必要である。

「素材」以外の項目、すなわち「中間財（加工品）」「中間財（部品）」「最終財（資本財）」「最終財（消費財）」については、2015－2019年から2020－

2024年にかけて符号は変わっていないが、近年対中国においてはメキシコの赤字がより大きく、対米国においてはメキシコの黒字がより大きくなっている。2020－2024年の対中国の「中間財（加工品）」「中間財（部品）」「最終財（資本財）」「最終財（消費財）」の貿易赤字は2015－2019年の4倍以上にのぼり、「中間財（加工品）」については約8倍にも膨らんだ。「中間財（加工品）」の中でも、特に「22：工業資材、加工品」のメキシコの純輸入拡大が際立っていた。2020－2024年の対米国の「中間財（部品）」と「最終財（資本財）」の貿易黒字の拡大も注目に値するが、この結果は、米中貿易摩擦がメキシコ企業の間接輸出と資本財輸出を増加させたという Utar, et al (2025) の主張 (Utar, et al (2025) Figure 6：33-34) と整合的である。

表2 メキシコの対米国・対中国種類別二国間貿易収支（億ドル）

2015-2019年平均	中国	米国
素材	-0.3	68.2
中間財（加工品）	-31.8	-222.6
中間財（部品）	-68.6	72.0
最終財（資本財）	-64.9	305.8
最終財（消費財）	-30.7	318.1
総計	-203.2	539.0

2020-2024年平均	中国	米国
素材	37.9	-188.6
中間財（加工品）	-252.5	-356.0
中間財（部品）	-278.5	437.1
最終財（資本財）	-294.6	1156.9
最終財（消費財）	-133.0	837.0
総計	-998.1	1967.6

（出所）UN Comtrade データ（BEC 分類）より筆者作成。貿易財の分類については、付表1参照。

表3の中国の対米国種類別貿易収支を見ると、一貫して「素材」で貿易赤字、「中間財（加工品）」「中間財（部品）」「最終財（資本財）」「最終財（消費財）」

米国・中国・メキシコ間の貿易：付加価値貿易から検討する新しい三角関係

で貿易黒字が計上されている。各項目を細かく確認すると、「素材」の三つの項目は全て対米国で貿易赤字を計上している。「中間財（加工品）」については、「121：食料品（加工品）」と「32：燃料と潤滑剤」が赤字であるが、「22：工業資材」の黒字が大きいために、黒字となっている。「最終財（資本財）」の対米国貿易黒字の近年の増加が顕著であることは特記に値する。表2で示した通り、中国は対メキシコでも「最終財（資本財）」の貿易黒字を拡大させている。中国のNAFTA向け資本財輸出が増加していることは、Dussel（2020）も指摘している。Dussel（2020）は、中国が2001年にWTOに加盟してから、NAFTAと中国間の貿易関係に構造的な変化が生じ、中国の貿易の高度化と共に中国からNAFTAへの資本財輸出が増加したことを示している（Dussel（2020）：27）。

表3 中国の対米国種類別二国間貿易収支（億ドル）

2015-2019年平均	米国	2020-2024年平均	米国
素材	-274.2	素材	-367.1
中間財（加工品）	278.2	中間財（加工品）	390.8
中間財（部品）	305.0	中間財（部品）	460.2
最終財（資本財）	937.3	最終財（資本財）	1533.4
最終財（消費財）	1366.9	最終財（消費財）	1465.4
総計	2612.9	総計	3611.8

（出所）UN Comtrade データ（BEC 分類）より筆者作成。貿易財の分類については、付表1 参照。

2. 付加価値貿易から検討する米国・中国・メキシコ間の相互依存関係

本節では、付加価値貿易統計を用いて、米国・中国・メキシコ間の貿易関係がどのように推移しているかを検討する。

（1）付加価値貿易とは

ここで、付加価値貿易の概念について説明する。最終財の貿易が中心であった時代には、国際貿易を「取引額」で測ることにより貿易における相互依存関係が明らかとなった。しかし、国際間で生産工程の分業が行われ、GVCが複

雑になり、中間財が何度も国境を超える貿易が盛んになるにつれて、国際貿易を「取引額」で測るだけでは、貿易についての相互依存関係は明らかにならないことが注視されるようになった。

その理由を図2の単純化された仮説上の例で説明しよう。例えば、日本で生産された基板（単価200）と中国で生産されたプラスチックカバー（単価50）のみを用いて、メキシコで高性能リモコン（単価300）が加工・組立されて、米国に輸出されるとする。この場合、第1節で用いた従来の貿易統計では、日本からメキシコに中間財輸出として200が、中国からメキシコに中間財輸出として50が、メキシコから米国に最終財輸出として300が計上され、世界貿易としては合計550が計上される。しかし、完成した高性能リモコンの単価300には、日本や中国で生産された基板とプラスチックカバーの価値（それぞれ200と50）が既に含まれているので、付加価値として事実上二重計上されており、実際にはメキシコにおける付加価値の創出・輸出は50（ $=300-200-50$ ）でしかない。また、日本の基板や中国のプラスチックカバーが最終的にたどり着くのはメキシコではなく米国である。これらの部品の価値は通関統計としてメキシコで1回、米国でもう1回、と2回計上されることとなる。このような「二重計上問題」は中間財貿易が盛んになればなるほど深刻になる。この問題を解決するべく、製品を各工程において純粹にその国で発生した（付加された）価値

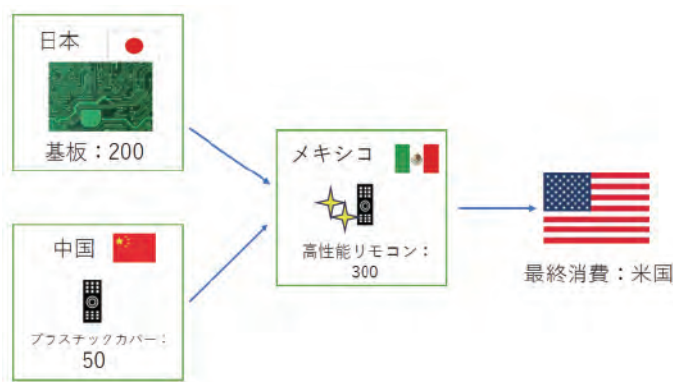


図2 「二重計上問題」の仮説例

米国・中国・メキシコ間の貿易：付加価値貿易から検討する新しい三角関係

のみを考慮する付加価値貿易の考え方が生まれた¹⁴。表4に、仮説上の例において、①「二重計上問題」により、貿易統計で計上される世界貿易量が、付加価値貿易統計で計上される付加価値貿易による世界貿易量よりも大きいこと、②どこの国からどこの国への（付加価値）輸出として計上されるかの違いを示した。

表4 「二重計算問題」の仮説例：貿易統計と付加価値貿易統計の差

	貿易統計	付加価値貿易統計
①日本→メキシコ	200	0
②中国→メキシコ	50	0
③メキシコ→米国	300	50
④日本→米国	0	200
⑤中国→米国	0	50
⑥世界貿易量	200+50+300=550	50+200+50=300

この例からもわかる通り、米国と中国が関税を掛け合ったとしても、中国の中間財がメキシコで加工・組立されて最終財として米国に輸出されることや、中国の最終財がメキシコを迂回して米国に輸出されることにより関税が回避され得るし、逆もまたしかりである。こうした第三国経由の貿易を警戒して、2020年7月に新NAFTAとして発効されたUSMCAでは原産地規則が厳格化・複雑化された。直近においても、メキシコのシェインバウム大統領は、中国からの迂回輸出に厳しい目を向けるトランプ政権に配慮した対中国関税政策を公表している¹⁵。

(2) 付加価値貿易から検討する相互依存関係

このように、付加価値貿易とは、「複雑に絡み合った産業間ネットワークの中で、付加価値フローの起点と終点の関係だけを見ようという」（猪俣2019：106）アプローチであり、今日の複雑な米国・中国・メキシコ間の貿易における相互依存関係を確認するには必須な情報である。例えば、中国の中間財がメキシコで加工・組立されて「メイド・イン・メキシコ」の最終消費財として米国に輸出される製品は、第1節で取り扱った貿易統計では、①中国からメキシ

コへの中間財輸出、②メキシコから米国への最終財輸出、として計測されていたのに対し、付加価値貿易統計では、メキシコの対米国輸出から中国の中間財分が引きはがされて、①メキシコで積み上げられた分の付加価値輸出と、②中国の米国向け付加価値輸出、として直接計上されるようになる。

米国・中国・メキシコ間の相互依存関係を検証するため、付加価値貿易の代表的な統計である OECD-TiVA¹⁶ を用いて表5～9を構築した。各表の横は、A国からB国への付加価値輸出を示し、各表の縦はA国のB国からの付加価値輸入を示す。OECD-TiVAのデータの開始年2015年と最終年2022年の付加価値輸出入、及び2015－2022年の付加価値輸出入の増加率を算出した。例えば、表5から、2015年の全産業において、メキシコから中国への付加価値輸出は110億ドル、メキシコから米国への付加価値輸出は1680億ドル、メキシコから世界全体への付加価値輸出は2710億ドルであるのに対し、メキシコの中国からの付加価値輸入は410億ドル、メキシコの米国からの付加価値輸入は1330億ドル、メキシコの世界全体からの付加価値輸入は2960億ドルであることがわかる。なお、2015年と2022年の間には、米中貿易摩擦とCovid-19が起こったことには留意しなければならない。

表5は全産業の結果である。表5を見ると、以下のことが明らかである。第一に、付加価値貿易で見ても、米国は対メキシコ及び対中国において付加価値輸入が付加価値輸出を超えており、中国は対メキシコにおいて付加価値輸出が付加価値輸入を超えている。第1節で確認した、米国の対メキシコ及び対中国における貿易赤字、中国の対メキシコにおける貿易黒字は、付加価値貿易でも同様の結果となった。第二に、メキシコの付加価値貿易全体に占める米国の割合は大きい。メキシコの付加価値輸出全体に占める米国の割合は2015年に約62%、2022年に約64%を占め、付加価値輸入では2015年に約45%、2022年には約42%を占める。メキシコにとって米国は重要な（付加価値）貿易相手国と言えよう。第三に、2015－2022年における中国とメキシコの間の付加価値貿易の増加は著しい。中国からメキシコへの付加価値輸出（メキシコの中国からの付加価値輸入）は、金額こそ対米国と比較すると小さいものの、2015年

米国・中国・メキシコ間の貿易：付加価値貿易から検討する新しい三角関係

から2022年に約82%増加しており、最も増加率が高い。また、メキシコから中国への付加価値輸出（中国のメキシコからの付加価値輸入）の増加率も約64%と高い。Dussel (2024) は「米国はメキシコの最大の貿易相手国であるが、その傾向は下降傾向にある。一方、中国は第二位の貿易相手国であり、その傾向は上昇傾向にある」と述べており（Dussel (2024)：1）、Alfaro, et al (2023)、Utar et al (2025) も米中貿易摩擦後の中国からメキシコへの輸出増加を指摘している（Alfaro, et al (2023)：32-33、Utar et al (2025)：4-5）。第1節でも、メキシコの貿易相手国として中国の存在が拡大傾向にあることが示されたが、付加価値貿易においてもメキシコと中国の間の相互依存関係が深化していることが明らかとなった。第四に、米国と中国の間の付加価値貿易は、金額として大きい。特に中国から米国への付加価値輸出の金額が突出して大きい。2015－2022年の増加率は比較的小さい。米国から中国への付加価値輸出の増加率はさらに小さく、2018年以降の米中貿易摩擦の影響を受けて米中間の相互依存

表5 付加価値貿易相互依存関係（全産業）：2015年、2022年、2015-2022年

2015年（10億ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		11	168	271
中国	41		396	1721
米国	133	195		1708
世界	296	1360	2216	

2022年（10億ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		19	255	398
中国	75		514	2654
米国	185	228		2213
世界	438	2154	3147	

2015－2022年(%)	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		63.8	52.0	47.0
中国	81.9		29.7	54.3
米国	38.8	17.0		29.6
世界	48.0	58.4	42.0	

（出所）OECD-TiVA データより筆者作成

関係は他の二国間関係ほど深化していないということができよう。

次に、産業別に付加価値貿易による相互依存関係を考察する。表6に、製造業の結果を示した。全産業で確認された第二の点、メキシコの付加価値貿易全体に占める米国の割合は大きいという結果は製造業にも言える。特に、メキシコの付加価値輸出全体に占める米国の割合は、全産業以上に製造業で大きく、2015年に約69%、2022年に約71%を占めている。メキシコの付加価値輸入全体に占める米国の割合は、2015年に約40%から2022年には約35%と減少しているが、米国はメキシコの（付加価値）貿易相手国として依然として重要であると言えよう。全産業で確認された第三の点、2015－2022年におけるメキシコと中国の相互依存関係の深化が見られるという傾向は、全産業以上に製造業で著しい。メキシコから中国への付加価値輸出は2015－2022年に76.1%増加、メキシコの中国からの付加価値輸入は87.6%増加しており、いずれも対米国を大きく上回っている。特に、メキシコの米国からの付加価値輸入にメキシコの中国からの付加価値輸入が追いついてきていることは注視されよう。全産業で確認された第四の点、米中間の相互依存関係は他の二国間関係ほど深化していないということは、特に中国の米国からの付加価値輸入（米国の中国への付加価値輸出）で顕著である。中国の米国からの付加価値輸入は2015－2022年に16.4%と最も小さい増加率となっている。

表6 付加価値貿易相互依存関係（製造業）：2015年、2022年、2015-2022年

2015年（10億ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		3	71	104
中国	21		191	797
米国	47	52		456
世界	115	392	812	

2022年（10億ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		5	112	159
中国	38		255	1281
米国	56	60		534
世界	161	579	1145	

米国・中国・メキシコ間の貿易：付加価値貿易から検討する新しい三角関係

2015－2022年(%)	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		76.1	57.7	53.3
中国	87.6		33.5	60.8
米国	20.5	16.4		17.2
世界	39.9	47.9	41.0	

(出所) OECD-TiVA データより筆者作成

以下、製造業の中でも GVC が盛んな自動車産業、機械機器産業、繊維産業を取り上げて、各産業で三国間の相互依存関係がどのように異なるのか考察する。

表7に自動車産業¹⁷の結果を示す。米国、中国、メキシコとも世界で10位以内の自動車輸出国である。特にメキシコにおいて自動車産業はリーディング産業であり、安価な労働力と USMCA を中心とした自由貿易政策に支えられて、米国市場向けの生産拠点として北米 GVC に後方参加の形で取り込まれている(咲川 (2023) : 11)。

表7の結果を見ると、メキシコと米国間の付加価値貿易は、付加価値輸出と付加価値輸入で対照的である。メキシコから米国への付加価値輸出は大きい上に増加しているのに対し、メキシコの米国からの付加価値輸入は減少している。2015年、2022年共にメキシコの対米国付加価値輸出は対世界向け付加価値輸出の約77%を占めており、メキシコの米国への付加価値輸出は2015－2022年に54.3%増加している。米国市場向けの重要な生産・輸出拠点としてのメキシコの立ち位置は確固たるものと言える。他方で、米国の対メキシコ付加価値輸出は、2015－2022年に11.6%低下している。米国の自動車産業付加価値輸出は、対中国、対メキシコのみならず対世界でも低下しており、製造業全体の増加傾向とは異なる様相を呈している。第2次トランプ政権が、自動車産業において、関税や輸入制限の強化や国内製造の優遇によって自動車企業に国内回帰を促しているのは、米国のこうした状況を鑑みたものと予想される。

自動車産業で最も顕著なのは、メキシコの米国からの付加価値輸入（米国からメキシコへの付加価値輸出）の減少と対照的な中国からの付加価値輸入（中国からメキシコへの付加価値輸出）の増加である。2015－2022年にメキシコ

の中国からの付加価値輸入は196%の増加を示しており、対世界と比較しても際立つ高さであり、米国の水準に追いついてきている。自動車産業におけるメキシコと中国の間の相互依存関係は、特にメキシコの中国からの付加価値輸入（中国からメキシコへの付加価値輸出）で顕著に深化していると言える。自動車産業では、付加価値貿易統計を用いても、Alfaro, et al (2023)、Utar, et al (2025) の「米中貿易摩擦後にメキシコが中国からの輸入を増加させた」という見解や、Dussel (2020) の「対NAFTAでの中国の貿易面での存在感がNAFTA内の貿易を解体している」(Dussel (2020) : 22) という主張と整合的な結果となった。

米国と中国の付加価値貿易は、付加価値輸出と付加価値輸入で対照的な結果となった。中国から米国への付加価値輸出が大きく、また2015－2022年に約42%増加しているのに対して、米国から中国への付加価値輸出は約40%低下している。自動車産業における米国と中国の相互依存関係は、中国から米国の

表7 付加価値貿易相互依存関係（自動車産業）：2015年、2022年、2015-2022年

2015年（千万ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		68	2775	3591
中国	104		863	3945
米国	544	945		7717
世界	1242	3724	12976	

2022年（千万ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		81	4255	5505
中国	308		1224	6350
米国	481	571		7326
世界	1459	3765	14087	

2015－2022年(%)	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		17.9	53.4	53.3
中国	195.9		41.8	61.0
米国	-11.6	-39.6		-5.1
世界	17.5	1.1	8.6	

（出所）OECD-TiVA データより筆者作成

付加価値輸出では深化しているのに対し、米国から中国の付加価値輸出では解体へと向かっている。

表8に、機械機器産業の結果を示す。2010年代の主要IT製品の生産において中国の存在は群を抜いている（末廣（2015）表3-1：44、田村（2023）：64）。こうした状況を反映し、三国の中で対世界向けの付加価値輸出が最も大きいのは中国であり、2015－2022年に最も大きな増加率を示している。メキシコも、対世界への付加価値輸出を増加させている。この二国と対照的なのは米国であり、2015年時点では世界向け付加価値輸出は中国に近い水準であるものの、2015－2022年の増加率はわずか8%と中国に水を開けられている。

機械機器産業のメキシコと米国間の付加価値貿易は、付加価値輸出と付加価値輸入で対照的である。メキシコから米国への付加価値輸出は対世界付加価値輸出の7割以上を占めており、2015－2022年の増加率も71%と大きい。それに対して、米国の対メキシコ付加価値輸出は、2015－2022年にわずか6.4%しか増加していない。メキシコが、機械機器産業においても、米国市場向けの生産・輸出拠点として北米GVCに後方参加の形で取り込まれている（咲川（2023）：11）ことを反映していると考えられ、両国間の貿易はメキシコから米国への付加価値輸出の面で関係が深化していると言える。

自動車産業同様に機械機器産業でも顕著なのは、メキシコの米国からの付加価値輸入（米国からメキシコへの付加価値輸出）の増加率が小さいのに対して中国からの付加価値輸入（中国からメキシコへの付加価値輸出）の増加が著しい点である。機械機器産業においても、メキシコと中国の間の相互依存関係は、特にメキシコの中国からの付加価値輸入（中国からメキシコへの付加価値輸出）で顕著に深化していると言えよう。機械機器産業においても、通常の貿易統計を用いた Alfaro, et al（2023）と Utar, et al（2025）、及び Dussel（2020）の見解と整合的な結果となった。

米国と中国の機械機器産業の付加価値貿易は、自動車産業のように付加価値輸出と付加価値輸入で対照的な結果とはならず、双方で相互依存関係が深化した。特に、中国から米国への付加価値輸出の水準は大きく、また2015－2022

年に増加している。しかし、中国の対世界付加価値輸出のうち対米国は2015年に20％に満たず、2022年には16％へと低下している。中国が機械機器産業においてアジアを軸とした世界のGVCの中心として、米国以外の国々へも付加価値輸出を増やしていることが予想される。

表 8 付加価値貿易相互依存関係（機械機器産業）：2015 年、2022 年、2015-2022 年

2015年（千万ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		12	463	638
中国	156		1147	5803
米国	437	345		4124
世界	1207	3358	6238	

2022年（千万ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		21	792	1043
中国	332		1629	9943
米国	465	429		4453
世界	1480	4291	8802	

2015－2022年(%)	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		83.9	70.9	63.5
中国	112.8		42.1	71.3
米国	6.4	24.4		8.0
世界	22.6	27.8	41.1	

（出所）OECD-TiVA データより筆者作成

最後に、表9に繊維産業¹⁸の結果を示す。中国は世界最大のアパレル輸出国である（川上・後藤（2018）表4-2：80-81）¹⁹。輸出のみならず、付加価値輸出においても、三国の中で中国が飛び抜けて大きく、2015－2022年の増加率も最も大きい。孟（2024）は、繊維産業の付加価値ネットワークにおいて、2000年に中国はASEAN諸国に囲まれる形でアジアという地域的なバリュー・チェーンの中心にすぎなかったのが、2021年にはアジアのみならず全世界の中心になったことを示した（孟（2024）図11-4-1：361）。表9の中国の付加価値輸出が飛びぬけて大きく、また増加率も最も高いという結果は孟（2024）の

見解と整合的である。それに対して、米国の付加価値輸出は対メキシコ、対中国のみならず対世界で低下しており、他の二国とは異なる様相を呈している。

繊維産業においても、メキシコと米国間の付加価値貿易は、付加価値輸出と付加価値輸入で対照的である。メキシコから米国への付加価値輸出は、2015年に対世界向け付加価値輸出の約74%、2022年には約77%を占めており、2015－2022年に約39%増加している。それに対して、米国の対メキシコ付加価値輸出は、2015－2022年に約29%低下している。繊維産業では、メキシコから米国への付加価値輸出の面で関係が深化しているのに対して、米国からメキシコへの付加価値輸出の面で関係は解体している。

繊維産業でも顕著なのは、メキシコの米国からの付加価値輸入（米国からメキシコへの付加価値輸出）の増加率が小さいのに対して中国からの付加価値輸入（中国からメキシコへの付加価値輸出）の増加が著しい点である。繊維産業においても、メキシコと中国の間の相互依存関係は、メキシコの中国からの付加価値輸入（中国からメキシコへの付加価値輸出）で特に顕著に深化していると言えよう。自動車産業と機械機器産業に続いて繊維産業においても、付加価値貿易統計を用いても、通常の貿易統計を用いた Alfaro, et al (2023) と Utar, et al (2025)、及び Dussel (2020) の見解と整合的な結果となった。

自動車産業同様に繊維産業でも、米国と中国の間の付加価値貿易は、付加価値輸出と付加価値輸入で対照的である。世界最大市場である米国向けの中国の付加価値輸出は大きい、2015－2022年の増加率は約17%と相対的に低く、2015年に世界向け付加価値輸出の28%を占めていたのが、2022年には22%へと下がっている。中国が、全世界のバリュー・チェーンの中心になったことで、米国以外の他国向けの重要性が相対的に増したと考えられる。反対に、米国から中国への付加価値輸出は小さい上に、2015－2022年に約28%低下している。

表9 付加価値貿易相互依存関係（繊維産業）：2015年、2022年、2015-2022年

2015年（千万ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		7	238	321
中国	160		3446	12439
米国	112	55		729
世界	417	1095	6960	

2022年（千万ドル）	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		8	330	427
中国	342		4017	18094
米国	80	40		584
世界	616	1130	9152	

2015-2022年(%)	メキシコ	中国	米国	世界
メキシコ		5.7	38.8	33.1
中国	113.2		16.6	45.5
米国	-28.7	-28.4		-19.9
世界	47.5	3.2	31.5	

（出所）OECD-TiVA データより筆者作成

おわりに

本稿では、米国・中国・メキシコの貿易関係を、通常の貿易統計を用いるだけでなく、付加価値貿易統計を用いて明らかにした。今日、GVCが複雑化し、何度も中間財が国境を超えて最終財が生産される貿易が盛んであるため、貿易統計を用いた分析には「二重計上問題」が生じる。よって、付加価値貿易統計を用いることにより「二重計上問題」を回避して、三国間の貿易面での相互依存関係を明らかにした。また、米中貿易摩擦後の期間も含んで分析を行った。

図3に、2022年の米国・中国・メキシコの貿易関係を、貿易統計の輸出入で示したもの（左：図1の2022年版²⁰⁾）と付加価値貿易統計の付加価値輸出入で示したもの（右）の違いを示した。図3から、米国とメキシコの間の相互依存関係は、輸出と輸入両方において貿易統計よりも付加価値貿易統計で小さくなっていることがわかる。両国間で何度も国境を超える貿易が行われているこ

米国・中国・メキシコ間の貿易：付加価値貿易から検討する新しい三角関係

と、メキシコが他国から中間財を輸入して加工・組立をして米国に輸出する後方連関型の GVC 参加をしていることを反映していると共に、中国を含む他国からの迂回輸出が行われている可能性が示唆される。他方、米国と中国間、中国とメキシコ間は輸出と輸入で異なる。中国から米国への輸出は付加価値貿易統計の方が貿易統計より小さくなっているが、米国から中国への輸出は、付加価値貿易統計の方が貿易統計より大きくなっている。よって、米国の対中国貿易赤字は、貿易統計では約 4,219 億ドルであるのに対し付加価値貿易統計では約 2,861 億ドルと縮小している。米中貿易摩擦が起こっても、中国から米国への付加価値輸出の減少は比較的小さい。中国からメキシコへの輸出は付加価値貿易統計の方が貿易統計より小さくなっているが、メキシコから中国への輸出は付加価値貿易統計の方が貿易統計より大きくなっている。特に、中国からメキシコへの輸出が付加価値貿易統計でかなり小さくなることは注目に値する。これらを鑑みると、米中貿易摩擦が起こっても中国からメキシコを含む第三国経由で財が米国市場へと向かっている可能性が示唆される。自由貿易を標榜するメキシコは米国を含む多くの国と自由貿易協定（FTA）を発効しており、中国からメキシコを通じて米国を中心とする他国へと輸出されている可能性は否

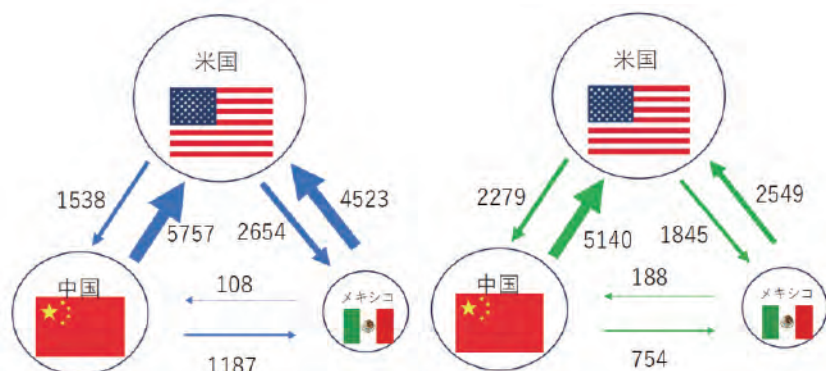


図 3 2022 年の米国・中国・メキシコの貿易関係（億ドル）：

貿易統計（左）と付加価値貿易統計（右）の違い

（注）矢印の太さは貿易額の量を、国を囲む円は GDP の大きさを反映している。

めない²¹。第1節(2)で考察した通り、中国から中間財、資本財を中心に輸入し、それらを用いて米国に最終財を輸出しているメキシコの種類別貿易収支を鑑みると、この結果は妥当であろう。また、中国からメキシコを通じた米国への迂回輸出の存在も示唆される。米国は中国のメキシコを通じた迂回輸出を警戒しており、メキシコも米国の意図を汲んだ政策を行い始めている²²。

以上、本稿で明らかになったことは以下の通りである。

第一に、貿易統計を用いると、米国・中国・メキシコ間の貿易は、1995年以降増加してきた。しかし、米国の中国からの輸入（中国から米国への輸出）は、2018年以降の米中貿易摩擦を原因として、2015年をピークにやや減少している。直近の2024年には、米国の輸入元として、「ニアショアリング」「フレンドショアリング」が功を奏してメキシコが中国を凌いでいる。中国—メキシコ間の貿易は、米国—メキシコ間や米国—中国間と比較すると数量的には少ないものの、近年特に中国からメキシコへの輸出（メキシコの中国からの輸入）が顕著に増加している。

第二に、貿易統計を用いて種類別二国間貿易収支を算出すると、各国のそれぞれの国に対する比較優位は異なっていた。メキシコは、中国から中間財（加工品、部品）と最終財（資本財、消費財）を、米国から加工品を輸入し、米国に部品と最終財を中心に輸出している。中国は、米国から素材を輸入して、中間財と最終財を輸出している。2010年代後半から2020年代前半にかけて、メキシコから米国への資本財純輸出は増加しているが、中国から米国への資本財純輸出がそれ以上に大きい。中国からメキシコへの資本財純輸出も増加している。Dussel (2020) が指摘する中国からNAFTAへの資本財輸出の増加は、米中貿易摩擦後の2020年代も続いていると言えよう。

第三に、付加価値貿易統計を用いても、通常の貿易統計を用いた貿易収支と同様に、米国は対メキシコ及び対中国において（付加価値）貿易赤字であり、中国は対メキシコにおいて（付加価値）貿易黒字であった。米国とメキシコ間の付加価値貿易は、金額としては米国と中国間よりも小さいが、2015年から2022年に増加しており、米国とメキシコ間の貿易面での相互依存関係は深化

したと言える。中国とメキシコの相互依存関係は、金額としては他の二国間と比べると小さいが、特に中国からメキシコへの付加価値輸出（メキシコの中国からの付加価値輸入）が2015年から2022年に顕著に増加した。米国と中国の貿易面での相互依存関係は、金額としては大きい、米中貿易摩擦の影響もあり、他の二国間ほど深化していなかった。

第四に、付加価値貿易統計を用いて産業別の相互依存関係を確認すると、GVCが盛んな自動車産業、機械機器産業、繊維産業において、メキシコの付加価値輸入における中国と米国の対照的な動きが確認された。すなわち、2015－2022年にメキシコの中国からの付加価値輸入が著しく増加したのに対し、メキシコの米国からの付加価値輸入が低迷もしくは低下すらしていた。特にその対比は自動車産業と繊維産業で顕著であった。

第五に、米国とメキシコの間の貿易は、通常の貿易統計を用いるよりも付加価値貿易統計を用いた方が小さかった。これは、両国間で何度も国境を超える貿易が行われていること、メキシコが他国から中間財を輸入して加工・組立をして米国に輸出する後方連関型のGVC参加をしていることを反映していると共に、中国を含む他国からの迂回輸出が行われている可能性を示唆している。特に、中国からメキシコを通じて米国へ迂回輸出されていることは否めない。直近2024年の貿易統計では米国の輸入元としてメキシコが中国を上回っていたが、付加価値貿易統計の最新年である2022年を比較する限り、米国の付加価値輸入元として中国がメキシコを大きく上回っていた。

本稿は、米国・中国・メキシコの貿易関係について付加価値貿易統計を用いて考察した点、米中貿易摩擦の時期を分析に含んだ点で既存研究を一步進める新しい研究である。付加価値貿易統計を用いることにより「二重計上問題」を回避し、米国・中国・メキシコ間の貿易面での相互依存関係を、付加価値フローの起点と終点の関係から明らかにした。しかし、Dussel (2025) が主張した「新しい三角関係」を貿易面でのみ拡張したにすぎず、投資、融資、雇用創出、インフラなどを含むその他の経済面や安全保障などについては一切触れていない。包括的な「新しい三角関係」についての研究は今後の課題としたい。

参考文献

- Alfaro, Laura and Davin Chor (2023) “Global Supply Chains : The Looming ‘Great Reallocation’”, *NBER Working Paper* 31661, 1-49
- Dussel, Enrique Peters (2020) “The New Triangular Relationship between China, the United States, and Mexico : Implications for Intra-NAFTA Trade”, *The International Trade Journal* 34 (1), 18-29
- Dussel, Enrique Peters (2024) “La relación commercial entre China, México y EE UU demuestra la idea de la nueva Guerra Fría” *EL PAÍS* 20 Enero 2024
- Dussel, Enrique Peters (2025) *Latin America, China, and Great Power Competition: New Triangular Relationships*, Lynne Rienner
- Dussel, Enrique Peters, Adrian H. Hearn, and Harly Shaiken (2013) *China and the New Triangular Relationship in the Americas: China and the Future of US-Mexico Relations*, University of Miami Center for Latin American Studies Publications
- Gallagher, Kevin P. and Enrique Dussel Peters (2013) “China’s Economic Effects on the U.S.-Mexico Trade Relationship : Towards a New Triangular Relationship?”. In Dussel, Enrique Peters, Adrian H. Hearn, and Harly Shaiken eds., *China and the New Triangular Relationship in the Americas: China and the Future of US-Mexico Relations*, University of Miami Center for Latin American Studies Publications, pp.13-24
- Gereffi, Gary (2018) “Development Models and Industrial Upgrading in China and Mexico”, In Gereffi, Gary eds., *Global Value Chains and Development: Redefining the Contours of 21st Century Capitalism*, Cambridge University Press, pp.206-227
- Utar, Hâle, Luis Bernardo Torres Ruiz, and Alfonso Cebreros Zurita (2025) “The US-China Trade War and the Relocation of Global Value Chain to Mexico”, *CESifo Working Paper* No. 10638. 1-52
- Xiao, Hao, Bo Meng, Jiabai Ye and Shantong Li (2020) “Are global value chains truly global?”, *Economic Systems Research* 32 (4) , 540-564
- 秋田浩之 (2025) 「中南米、米中の「関ヶ原」に」『日本経済新聞』2025年9月2日朝刊
- 猪俣哲史 (2019) 『グローバル・バリューチェーン：新・南北問題へのまなざし』日本経済新聞出版社
- 川上桃子・後藤健太 (2018) 「第4章 生産するアジア：グローバルな分業ネットワークと地場企業の発展」遠藤環、伊藤亜聖、大泉啓一郎、後藤健太編『現代アジア経済論－「アジアの世紀」を学ぶ』有斐閣ブックス、72-93頁
- 咲川可央子 (2023) 「メキシコのグローバル・バリュー・チェーン参加：高度化への予備的考察」『ラテン・アメリカ論集』57巻、1-24頁
- 末廣昭 (2015) 『新興アジア経済論－キャッチアップを超えて』岩波書店
- 田村太一 (2022) 「米中貿易摩擦とグローバル・バリューチェーン」『国際経済』74巻、59-81頁
- 日本経済新聞社 (2024) 「日米韓、貿易で中国離れ－米の輸入相手、17年ぶりに首位陥落」『日本経済新聞』2024年2月8日朝刊

米国・中国・メキシコ間の貿易：付加価値貿易から検討する新しい三角関係

- 日本経済新聞社（2025）「メキシコ、最大 50% 関税－中国車など検討 対米交渉の材料に」『日本経済新聞』2025 年 9 月 12 日朝刊
- 日本経済新聞社（2025）「メキシコ大統領、支持率 7 割－就任 1 年関税交渉で評価」『日本経済新聞』2025 年 10 月 2 日朝刊
- 日本経済新聞社（2025）「メキシコ、追加関税回避－対中など税率上げ、米国重視にカジ」『日本経済新聞』2025 年 10 月 29 日朝刊
- 浜口伸明（2024）「第 8 章 貿易」清水 達也編『ラテンアメリカ経済入門』アジア経済研究所、117-130 頁
- 孟渤（2023）「グローバル・バリューチェーンからみる米中関係と米中貿易戦争の影響－付加価値貿易に基づく数量分析－」丁可編『米中経済対立－国際分業体制の再編と東アジアの対応』アジア経済研究所、35-70 頁
- 孟渤・程文銀（2024）「ASEAN と日本との貿易・投資関係－グローバル・バリューチェーンの視点から－」濱田美紀編『ASEAN と日本－変わりゆく経済関係』アジア経済研究所、347-378 頁

付表 1：貿易財の生産工程別分類

		BEC コード
素材		111: 食料品、素材、主に工業用
		21: 工業資材、素材
		31: 燃料と潤滑剤、素材
中間財	加工品	121: 食料品、加工品、主に工業用
		22: 工業資材、加工品
		32: 燃料と潤滑剤、加工品
	部品	42: 資本財の部品とアクセサリー（輸送機械を除く）
		53: 輸送機械の部品とアクセサリー
最終財	資本財	41: 資本財（輸送機械を除く）
		521: 輸送機械、その他、工業
	消費財	112: 食料品、素材、主に家庭消費用
		122: 食料品、加工品、主に家庭消費用
		51: 輸送機械、乗用自動車
		522: 輸送機械、その他、非工業
		61: 耐久消費財
		62: 半耐久消費財
		63: 非耐久消費財

（出所）独立行政法人経済産業研究所「RIETI-TID2023（HS 分類）」の分類より作成

(Endnotes)

- 1 例えば、秋田は中国のラテン・アメリカへの凄まじいインフラ投資や貿易増加に対する米国の警戒心について取り上げ、ラテン・アメリカを巡る米中間の対立を「中南米、米中の関ヶ原に」と題して論じている（日本経済新聞2025年9月2日朝刊）。
- 2 本稿第2節で詳しく論じる。
- 3 例えば、田村（2021）や孟（2023）は米中間の貿易関係を、孟・程（2024）はASEANと日本との貿易・投資関係を分析するのに、付加価値貿易統計を用いている。咲川（2023）は付加価値貿易統計を用いてメキシコのGVC参加の特徴を示しているが、米国・中国・メキシコ間の貿易については一切取り扱っていない。Xiao, et al（2020）は付加価値貿易統計を用いて米国・中国・メキシコを含む全世界のGVCネットワークについて論じているが、この三国のみに焦点を置いているわけではない。
- 4 日本経済新聞2024年2月8日朝刊。
- 5 正確には、2010年から2015年にかけては、米国の貿易赤字は縮小している。ただし、一年前の2009年と2014年を確認すると、この間に米国の貿易赤字は拡大している。
- 6 NAFTAとUSMCAは米国、メキシコ、カナダの間で締結・発効したが、本稿ではこの三国の中で特に米国とメキシコを取り上げ、中国との三国間の貿易に注目している。
- 7 日本経済新聞2025年10月2日朝刊、2025年10月29日朝刊
- 8 どのように中国が米国に対する輸出を拡大していったかについては、田村（2023）が詳しい。
- 9 日本経済新聞2024年2月8日朝刊
- 10 Utar, et al（2025）は、メキシコに進出した米国多国籍企業が中国から輸入を増加させた指摘している。
- 11 浜口（2024）はメキシコの対日中欧合計と対米国の種類別貿易収支を算出している（浜口：125表8-2）が、本稿とはいくつかの点で異なる。彼は、①対日中欧合計で示しており中国のみを取り上げてはいない、②RIETI-TID2023の分類とは異なる分類方法（BEC2桁分類）を用いている、③2015－2019年のみを算出しており、直近についての情報はない。本稿では、メキシコの対中国及び対米国の貿易収支と中国の対米国貿易収支をRIETI-TID2023に従って種類別に算出し、直近の2020－2024年においても算出した。
- 12 中国の対メキシコ貿易収支は、メキシコの対中国貿易収支の符号を反対にすればわかり、米国の対メキシコ貿易収支と対中国貿易収支は、メキシコの対米国貿易収支と中国の対米国貿易収支の符号を反対にすればわかるので、表には掲載していない。
- 13 2019年以降「31：燃料と潤滑剤」の対米国貿易収支は赤字に転換している。
- 14 付加価値貿易の詳細は猪俣（2019）第4章参照のこと。本文中の仮説上の例も猪俣（2019）図4-1を参考にした。
- 15 日本経済新聞社2025年9月12日朝刊、2025年10月29日朝刊
- 16 OECD-TIVAは、OECD国際連関表（OECD-ICIO）から導出されている。OECD国際

米国・中国・メキシコ間の貿易：付加価値貿易から検討する新しい三角関係

連関表は2008年国民経済計算に準拠し、国際標準産業分類第4版（ISIC, Rev.4）に基づく産業リストを利用している。詳細は、OECD-TiVAのホームページ及び猪俣（2019）第5章を参照。

- 17 ここで、自動車産業は、自動車、トレーラー、セミトレーラー、およびその他の輸送機器を指す。
- 18 ここで、繊維産業は、繊維製品、衣類、皮革及び関連製品を指す。
- 19 2000－2015年までは、川上・後藤（2018）表4-2より、2020年及び2024年については川上・後藤（2018）も用いているUN Comtradeのデータから確認している。
- 20 図1は最新のUN-Comtradeの貿易統計データを用いた三国間の貿易関係を示した。OECD-TiVAの付加価値貿易データの最新年は現時点で2022年のものであるため、比較のために2022年に揃えた。
- 21 メキシコは、14の自由貿易協定（FTA）を50以上の地域と結ぶ「FTA先進国」であるが、対米重視の貿易政策に舵を切り、中国をはじめとしてFTAを結んでいない国に対して関税を大幅に引き上げる法案を国会に提出した（日本経済新聞2025年10月29日朝刊）
- 22 日本経済新聞2025年9月12日朝刊、10月29日朝刊

（原稿受理日：2025年11月24日；掲載決定日：2026年1月20日）